

# 第九の灯、未来へ繋ぐ



## 清高ミニタイムス

北海道清水高等学校  
新聞局  
北海道上川郡清水町  
北2条西2丁目2  
発行責任者  
福井 心雄



少し時間がたってから合唱祭の記事を書きました。振り返る時間はとても有意義でした。私は合唱が好きで

すが、合唱祭に肯定的な意見だけでなく、否定的な意見もあることを知り、多様な声を踏まえた上で、その意義

や課題を伝えることの大切さを感じました。今後の新聞作成に生かしていきたいです。  
(小川)

第九の町、清水町。清水高校では、毎年合唱祭で「第九」を歌っている。今年は少子化の影響により全学年二クラスとなつてから初めて

の合唱祭となった。また、感染症予防のため、マスクの着用や換気の徹底などの対策が講じられた。

点として発信し続けてきた。清水町を象徴する第九について、若い世代である高校生に「今後

も合唱を続けるべきか」というアンケートを行った。

有志企画では、早押しイントロクイズが行われた。各クラスから一名が選出され、クイズを超えて楽しめる企画として盛り上がりを見せた。

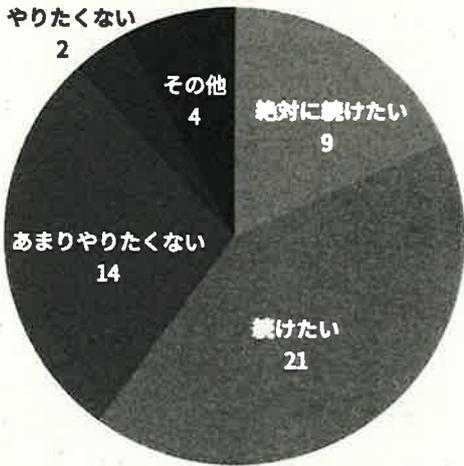
昨年、清水町で第九の合唱が始まって四十五周年を迎えた。「第

九の町」づくりを牽引してきた高橋亮仁さんが、去る五月二十五日に逝去された。九十三歳だった。町民有志による「せせらぎ合唱団」を率い、一九八〇年から続く第九演奏会

を育て上げた。合唱の灯を守り続けたその姿に、地域から惜しむ声

が広がっている。五年ごとに開かれる記念公演は、清水を音楽の拠

点でも多くの笑顔が見られ、生徒同士の交流が深まった行事であった。今年の合唱祭は、各クラスの合唱だけでなく、生徒



清水校生 50 名から回答をいただいた。

高橋さんが守り続けてきた合唱の灯を絶やすことなく、これからは清水町の誇りとして受け継いでいきたい。  
(小川)

また、柏倉先生が、NHKのど自慢で披露した楽曲を松下先生と共に歌い上げるサプライズコラボが実現した。予想外の演出に生徒や観客からは驚きと歓声が上が

り、会場は和やかな雰囲気包まれた。来年度も生徒が驚きと喜びを感じられる合唱祭になることを期待する。  
(澤田)



宙に舞う3A指揮者・宮間さん。

いづれの場面でも多くの笑顔が見られ、生徒同士の交流が深まった行事であった。今年の合唱祭は、各クラスの合唱だけでなく、生徒

# 清高ミニタイムス

## 生徒インタビュー

3Aの三浦潤さんに話を伺った。長い歴史を持つ「第九」は、今後も受け継ぐべき意義深い存在だという。

「時代性を感じる面はあるが、その歴史の一端を担う立場として、清水高生は次世代へ語り継ぐ責任がある。」

また、形の変化は否定せず、現段階では伝統の価値を重視する姿勢を示した。(野木)



北海道清水高等学校  
新聞局  
北海道上川郡清水町  
北2条西2丁目2  
発行責任者  
櫻井 心樹



初の「第九」合唱を終えた、1Aの指揮者である松澤大和さんに話を伺った。合唱祭に向けた練習では全パートのリズム統一に最も



苦労したという。指揮者として意識の向け方を工夫し、練習

### 3年生最後の舞台へ

生徒会顧問の細木先生に、合唱祭について三つの質問をした。

「生徒の反応をどう感じているか」という質問に対しては、「生徒数は減少し、以前と比べて規模は小さくなっているが、どのクラスも一致団結して取り組んでいる。」と話してくれた。



細木先生。「生徒のために」語ってくれた。

また、地域との連携については、清水町の人たちも楽しみによく来てくれており、今後はこども園の子供たちにも来てもらいたいと言っていた。

最後に、一二月開催を続けている理由については、「3年生が卒業前行える最後の行事として位置づけているためだ」と説明してくれた。(米森)



法を改善させた結果、各々の努力差はあったが一定のまとまりを見せたという。「指揮者として歌声を導いた時間が、忘れられない思い出となった。」と語った。(野木)

### まわりの声



一九七〇年生まれで清水町育ちの役場職員、渋谷直親さんに話を伺った。清水町では、昼のチャイムや小・中学校のチャイム、防災無線が「第九」で統一されており、町の象徴的な存在となっているという。

日常の中で自然に第九が流れる環境が、町民に親しまれてきたと語った。また、雄大な日高山脈や水のおいしさ、人の優しさも町の魅力として挙げ、一九八〇年から続く第九の取組が昨年四十五周年を迎えたことにも触れた。(澤田)